

## 令和6年度山形県愛鳥週間ポスターコンクール 審査講評

小学校23校、中学校22校、高校8校から146点が出品されました。小学生の作品には、身近な野鳥に目を向け、特徴をとらえている作品がたくさんありました。中でも山形県知事賞は、ピンクの色が特徴的なオオマシコを発見した様子を大胆な構図で描いています。また、山形県教育委員会教育長賞は、電線にたくさんのスズメを描くことで、さわやかな朝を想像させる作品になっています。

中学生・高校生の作品は、色彩豊かな野鳥や鳥たちが羽ばたく瞬間など動きのある作品が多かったです。中学生の環境省東北地方環境事務所長賞は、魚を捕食するミサゴを描いています。魚を捕らえる瞬間を画面いっぱいに表現しました。背景とミサゴの色のコントラストが鮮やかで迫力ある作品になっています。また、高校生の山形県教育委員会教育長賞は、躍動感あふれるカラスの姿を黒一色ではなく夕暮れの色に合わせて色彩豊かに表現しています。日本野鳥の会山形県支部長賞では、チゴハヤブサの特徴でもある白地に黒褐色の縦斑など細部まで丁寧に彩色しています。

今回の審査全体を通して感じたことは、どの作品にも野鳥たちの生き生きとした姿が表現されており、野鳥たちへの愛が伝わってくるということです。野鳥たちがのびのびと過ごすことができ、こんな世界だったらいいのという思いが伝わってきました。今後、ポスターを制作することがあればぜひ考えていただきたいことがあります。それは、ポスターとしての役割も考慮して構図や配色を検討するということです。例えば文字を入れる場合は「愛鳥週間」「Bird Week」がしっかり目立つように配色することでより完成度の高い作品になるものがあると思いました。

今年度も野鳥たちの生き生きとした姿が描かれた作品が数多く寄せられたことを大変うれしく思いました。今回も専門家の方々から野鳥のことや自然環境のことなどについて話を聞きながら審査させていただきました。今回のようなポスター制作をきっかけに野鳥や周りの自然、野鳥を守るための活動にも興味を持っていただけたらと思います。そして、自然豊かな山形に住む自分たちだからこそこできることはないのか、私たちを取り巻くさまざまな問題に向き合うきっかけになればと思いました。

尾花沢中学校 教諭 横倉 希